

グローバルリーダー育成校設計業務公募型建築プロポーザルに係る審議の結果について

1 特定結果

次のとおり、特定者及び次点者を特定しました。

特定者	グローバルリーダー育成校（仮称）設計業務 C + A・土井 建築設計共同体 株式会社 シーラカンズアンドアソシエイツ （愛知県名古屋市中区大須 3-5-13 HASE-BLDG.1 6F） 土井一秀建築設計事務所（広島県広島市西区庚午中 3-4-25-202）
次点者	香山・久米・あい 設計共同体 有限会社 香山壽夫建築研究所 （東京都文京区本郷 2 丁目 1 2 - 1 0 U T 本郷ビル 3 階） 株式会社 久米設計 大阪支社 （大阪府大阪市西区江戸堀 1 丁目 10-8 パシフィックマークス肥後橋） 株式会社 あい設計（広島県広島市東区上大須賀町 10-16）

2 講評

【審査部会長の総評】

世界の問題に向き合いリーダーシップを発揮できるようなグローバルリーダーを広島から育てたい、という広島県の強い意向でプロポーザルが行われました。

プロポーザルでは、簡易提案書の段階では（一次審査）具体的な図面を描かないため、ゾーニングや考え方が審査対象となりました。全国から 25 案が寄せられ、8 月 16 日に一次審査を行い、議論した上で 2 度の投票を繰り返し、6 案が二次審査に残りました。言うまでもなく、二次審査に残った 6 案はそれぞれ個性的で優れた特徴を備えた提案でした。

公開で行われたプレゼンテーションでは、A1 サイズの提案書を求め模型の提出も許されました。

短い時間の中で、提案者は審査委員と聴講者によく自らの提案の意図を伝えていました。プレゼンテーションと質疑応答のなかで、提案者はこの計画に対する思いや敷地の特性をどのように把握したかなどについて、適確な説明をしました。こうした公開プレゼンテーションはたいへん充実したものでした。

最後に、広島県がプロポーザル方式による設計者選定に積極的な姿勢と熱意を示していることに、設計を生業とするものの一人として敬意と謝意を表したいと思います。ともすれば公共の仕事は、内容的な評価を伴わない入札形式に流れるのが大勢ですが、地域との親和性を創造し、同時に長い時間公共財として使われる、という難しい課題を克服するには、設計者の資質と内容的な評価が欠かせないはずです。

今回のプロポーザルがこれに続く幾多の発注の良き先例となることを期待してやみません。

(1) 概要

このプロポーザルは、「国際社会の持続的な平和と発展を牽引するグローバルリーダー」を育成するとともに、県全体の教育水準向上を牽引する学校を計画する設計者を選定するために実施されました。

「施設計画の考え方」、「施設計画の概要」に基づき、（ア）学校づくりについて、（イ）配置計画について、（ウ）施設計画について、（エ）施設整備方針についての 4 つの評価テーマを設定し、各者からの提案を求めました。

(2) 最終審査概要（A 者～F 者：最終審査時の発表名）

最終審査では、技術提案書に基づき、1 者当たり発表 10 分・質疑応答 15 分の公開ヒアリング審査を行いました。

その後、別室に移り事務局が設定した審議プロセスに沿って公平に審査部会を開催しました。

まずこのプロポーザルの主旨と評価項目を確認した上で、全審査委員がそれぞれの応募者に対する印象を述べ、一同の認識を深めた上で、一番に押す案と二番目に押す案を投票しました。投票の結果、A者、D者、F者に複数票が入り、E者に一票が入りました。E者に投票した審査員に投票理由の確認を取り、全審査委員が合意した上でこの者を除き、A者、D者、F者を最終議論の対象としました。

続いて、全審査委員が質疑応答の印象を踏まえ、各者の提案に意見を述べた上で最終投票を行いました。投票結果は、F者が五票、A者が二票、D者がゼロ票となりました。さらに、この結果に対して全審査委員が意見を述べた上で、審査部会の総意として、F者を特定者、A者を次点者としました。

(3) 講評

特定者（F者）の提案は、寮と校舎が独立し、その間に地域交流を目的としたアリーナやコミュニケーションラインを伴った街のような空間を配置することで、これら3つのゾーンに分けられたプランのメリハリが効いており、寮から校舎へ街を通過して登校する動線から「学習と生活のイメージ」が具体的に湧いてくる点が評価されました。複雑なクラスター状の平面構成をまなびの庭やみかん広場を中心としたコネクターで一体性を生み出しており、また、諸室の重ね合わせも検討していける魅力的なプランです。さらに平成31年4月開校へ向けた段階施工の可能なプランが計画されておりコストバランスも良い点、豊富な経験と実績があり信頼感の持てる点なども評価されました。

次点者（A者）の提案は、コンパクトにまとまっている平面構成と空間の精神性、正門から大きな前広場を通過してエントランスから中庭へという人の流れ、1期で正面に学校の顔を作り2期でその裏側の工事に移れる整備方針などが評価されました。

一方で、コンパクトな計画であることから、校舎と寮が近すぎるなどの問題点があるという指摘が一部の審査委員からあり、投票の結果、次点となりました。

非特定者（B者）の提案は、意欲的な提案であるといった点が評価されました。一方で、コスト的な実現性も乏しいことに加え、セキュリティに課題があるといった意見の他、教室のコメントがないために、日常の学習イメージが湧かず、生徒が中心になっていない印象を受けた等の意見が出ました。

非特定者（C者）の提案は、よく練られている点やメディアセンターのイメージがグローバルリーダー校に合っているとといった点が評価されました。プレゼンの印象が良く、具体的なイメージが湧いて魅力的であったと評価されました。一方で、海側の敷地を学校が独占してしまう点や一番遠い寮と校舎の距離が懸念されるといった意見と地元交流が難しいイメージを持ったという意見が出ました。

非特定者（D者）の提案は、完成度も高く、既存の学校とは違うまさにGL校という印象を受けた点が評価されました。一方で、住民を迎え入れる外観が物足りないことや各かたまりが閉鎖的であることに加え、2階について回廊等で渡り廊下をつなぎ施工面積が大きくなることからコストの懸念があるという意見が出ました。

非特定者（E者）の提案は、鉄骨と木造で施工し、木造はバリエーション豊かなものを作って、教材にも使用する点は木材振興の面で有効な提案であると評価されました。一方で、中心の空間に魅力が乏しい点や校舎の間取りが東西逆の方が良かったのではないかという意見や学びの回廊をどう活用するかイメージが湧かないといった意見、また、寮が独立していることでの管理面での難しさが指摘されました。

3 審議経過等

(1) 審議内容

ア 評価基準、評価要領の策定

(ア) 学校づくりについて、(イ) 配置計画について、(ウ) 施設計画について、(エ) 施設整備方針についての4つの評価テーマを含め、評価基準及び評価要領等を策定

イ 技術提案書の提出者の選定（一次審査）

参加表明書及び簡易提案書の提出者（25者）について、技術提案書の提出者を選定するための基準による評価を行い、技術提案書の提出者（6者）を選定

ウ 技術提案書の特定（最終審査）

提出された技術提案書（6者）について、公開ヒアリングを実施した上で、技術提案書を特定するための基準による評価を行い、特定者及び次点者各1者を特定

[審議経過]

平成28年6月29日	審査部会（第1回）	評価基準、評価要領の策定
平成28年7月8日	公募型建築プロポーザル公示	
平成28年8月2日	参加表明書等の提出期限	25者提出
平成28年8月16日	審査部会（第2回）	技術提案書の提出者の選定（6者）
平成28年8月24日	技術提案書の提出要請	
平成28年9月6日	技術提案書の提出期限	6者提出
平成28年9月15日	審査部会（第3回）	公開ヒアリング、技術提案書の特定

(2) 審査部会構成

[審査部会委員（順不同・敬称略）]

委員区分	氏名	所属等
部会長	内藤 廣	建築家・東京大学名誉教授
委員	長澤 悟	(株)教育環境研究所理事長 ／東洋大学名誉教授
委員	錦織 亮雄	(株)新広島設計 代表取締役 ／前広島県建築士会会長
委員	亀山 英治	大崎上島町 副町長
委員	宮地 正人	広島県土木建築局 建築技術部長
委員	寺田 拓真	広島県教育委員会事務局教育部 学びの変革推進課長
委員	吉村 薫	広島県教育委員会事務局教育部 高校教育指導課長